

2020年度東海大学高輪校舎一般体育科目に関する報告 —生涯スポーツ理論実習アンケートを基に—

北濱 幹士^{*1}

A Report on the Physical Education Program at Tokai University Takanawa Campus in 2020

-Based on A questionnaire survey on Theory and Practice of Lifelong Sports-

by

Kanji KITAHAMA^{*1}

(received on Sept. 15, 2021 & accepted on Jan. 11, 2022)

あらまし

2020年度東海大学高輪校舎の一般体育科目は新型コロナウイルス感染症の出現により大幅な変更が余儀なくされた。本稿では、2020年度の一般体育開講科目について述べた後、特に現代教養科目である健康スポーツ科目（健康・フィットネス理論実習及び生涯スポーツ理論実習）の授業運営方法について述べる。また、生涯スポーツ理論実習アンケート（同年度秋学期末にオンデマンドで実施）と共に2020年度の一般体育科目を振り返り、その結果を基に2021年度の高輪校舎一般体育開講科目について考察する。

Abstract

This report reviews the Physical Education Program at Takanawa Campus in 2020 academic year. Although we had to create a new approach to manage the program, such as regular face-to-face class and distance learning, in this year of 2020, to prevent the Spread of Novel Coronavirus (COVID-19). After that, looking back on the 2020 program with a questionnaire survey on Theory and Practice of Lifelong Sports, and we consider the Physical Education Program offered at 2021 year.

キーワード: 一般体育, 高輪校舎, 対面授業/遠隔授業

Keywords: Physical Education Program, Takanawa Campus, Regular face-to-face class/Distance learning

1. はじめに

2020年度は新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の流行により、国内外が未曾有の危機に直面し世界は一変した。多くの教育機関では、2019年度末より各種行事や式典等を中止や変更、或いは出席者制限などの措置を取らざるを得なくなった。行事以外にも、分散发行や遠隔授業（オンデマンド/オンライン）など様々な感染拡大防止対策が講じられた。

東海大学高輪校舎では、2020年度の授業開始日が4月24日から5月11日へと変更され、春学期開講科目は主にインターネットを活用した授業で構成される事になった。高輪校舎一般体育研究室では、大学の授業運営方針に則ると共に、湘南校舎一般体育研究室の授業運営方法を参考に授業計画を再検討する事となった。

本稿では、2020年度春・秋学期に実施した高輪校舎一般体育科目を振り返ると共に、秋学期開講の生涯ス

^{*1} 東海大学学生アチーブメントセンター（高輪教養教育センター） 准教授

Tokai University Student Achievement Center
(Takanawa Liberal Arts Education Center),
Associate Professor

スポーツ理論実習で実施した2020年度一般体育科目に関するアンケートについて考察し、次年度の授業開講計画の一助としたい。

2. 2020年度の一般体育開講科目

東海大学の一般体育科目は、必修科目である区分II（現代教養科目：健康・スポーツ科目）の健康・フィットネス理論実習（以後、健康・フィット）と生涯スポーツ理論実習（以後、生スポ）、そして選択科目である区分V（自己学修科目）の各種講義及び実習科目によって構成されている。

健康・フィット及び生スポの担当者は、すべての学生と向かい合って、体を動かすことの大切さ、健康の重要性、そしてスポーツを楽しむことが人生を豊かにする事を伝えるべく授業を実施している²⁾。また、シラバスの授業概要においては両科目共に下記のように目的を記している、『生涯を通じて活力あるライフスタイルを形成するための理論と実践能力を学修する。また、健康・体力面だけでなく、実習を通じて仲間とともに身体活動を体験することで、初年次教育としての「友達づくり」や「仲間との信頼関係づくり」をねらいとしている』^{2), 3), 4)}。

高輪校舎一般体育科目で使用している教場は、4号館4階のアリーナ（バスケットコート1面）、4号館地下2階フィットネスルーム、3号館横の屋外砂入り人工芝テニスコート1面である。また、ガイダンスや雨天時の座学では教室を使用している。なお、2020年度の本科目担当教員は、非常勤8名、専任1名の合計9名である。

必修科目（区分II）の健康・スポーツ科目（健康・フィット及び生スポ）は大学における初年次教育の意味を持っているため、高輪校舎では1年次に指定された推奨クラスにて履修するようガイダンスで指導している。推奨クラスは、各学科の新入生約80名を学籍番号や男女比率によって2分割し、片方のグループは春学期に健康・フィット、秋学期に生スポ、もう一方は春学期に生スポ、そして秋学期に健康・フィットを履修ができるよう構成している。

2020年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の対応措置として開講科目の制限、そして遠隔授業を取り入れ、春と秋学期では異なった授業形態にて実施した。特に、春学期は新型コロナウイルスに関する情報が錯綜しており、授業実施方法に関して苦慮した。その理由は、一般体育開講科目の約3分の2は実習科目であり、それら実習科目においては学生同士の接触も多く、他科目と比較すると感染リスクは非常に高いと考えられる。しかし、健康・フィットと生スポは必修科目であり、1年次生のうちに履修を終える事を全学的に推奨している。従って、両科目の開講は必須であり、閉講は次年度以降における学生の履修計画が困難になるだけでなく、各学科の履修計画にも支障をきたす恐れがある。その為、高輪一般体育研究室としては下記に注意した上で一般体育科目の2020年度授業計画を再構築した。

必修科目である健康・フィットと生スポは全14回の授業で構成されているが、そのほとんどが身体活動を伴った実習である。遠隔授業で運動を実施するとしても、学生個々の状況が皆無であり（運動実施が可能なスペースの有無、集合住宅による階下への騒音など）、運動の実施を含める事には一抹の不安が残る。また、年度始めの学生健康診断が実施できていなかった事も懸念した理由の1つである。そこで、春学期はオンデマンド（課題提出型）でも、健康・スポーツに関する教育が担保可能な健康・フィットのみを開講し、新型コロナウイルスに関する見解が少しでも明らかになるであろう秋学期を生スポの開講学期とした。なお、秋学期に開講した生スポは、使用する教場によって学生を分散させた上、授業前の検温、手指・教具の消毒、教員・学生のマスク着用、窓開け・扇風機による換気などの感染症対策を講じて行った（2.2参照）。

選択科目は、春と秋学期を全く異なった形で実施した。春学期の講義は全て遠隔授業、実習は全て閉講とした。秋学期の講義は春同様に遠隔授業のみとし、実習は種目及び履修者数の制限付きとして開講とした。

2.1 春学期

29科目（同一名称科目を含む）の開講を予定して

いたが、前述した通り、新型コロナウイルスの感染症対策としてインターネットを活用した遠隔授業へと変更になった。高輪教学課と検討した結果、以下の対応措置を取る事とした。1) 学科毎に健康・フィットをオンデマンドで開講する、なお、上記への移行に伴い生スポは閉講とする、2) 区分V実習科目は全て閉講とする、3) 区分V講義科目の開講有無は担当教員に一任する。その結果、区分V講義科目は、8コマの開講予定からオンデマンドによる4コマの開講となった（Table 1参照）。なお、区分IIで開講した健康・フィットは、授業支援システム（LSM）を利用して全11回をオンデマンド課題提出型にて行った。

Table 1 Courses to be Offered and Course offered in the Spring Semester

春学期開講予定科目		春学期開講科目
区分II		
・健康・フィット（4）	⇒	4コマ開講
・生スポ（5）*1	⇒	全て閉講
区分V		
・講義科目（8）	⇒	4コマ開講
・実技科目（12）	⇒	全て閉講

*1 再履修1科目を含む

2.2 秋学期

春学期の開講科目削減を踏まえて、秋学期は意図的に区分Vの開講科目を増加させた。開講するに当たっての前提事案としたのは、各教場に合致した履修学生数と各実習において可能な限り教員をも含む学生同士の接触を減少させる事である。この2点を踏まえ、以下の4点を秋学期における対応措置とした。1) 春学期閉講した生スポを週8回開講し、学科を2分割して履修者を分散させる、2) 再履修用の健康・フィットは春学期同様にオンデマンドとする、3) 区分Vの実習科目は濃厚接触が比較的少ない種目（ネット種目と個人種目）のみを開講とし、履修者数を制限する、4) 区分Vの講義科目開講有無は担当教員に一任する。但し、開講する場合は遠隔授業とする。

更衣室の利用や更衣室から教場への移動方法等を踏まえ、各教場の最大収容人数（履修最大学生数）を以下に定めた、1) アリーナ：20名、2) フィットネスルーム：15名、3) テニスコート：15名。また、区分V（実習）で開講予定であったサッカー、バスケットボール、バレーボール、護身術は閉講とし、バドミントン、テニス、卓球、ゴルフへと変更した。また、区分V（講義）は、8コマの開講予定から6コマのオンデマンド開講となった（Table 2参照）。

区分IIの生スポは、学内、特に更衣室における学生の分散を鑑みて対面10回、遠隔4回の合計14回で授業構成をした。なお、クラス分けは各学科の対象学生約80名を学籍番号や男女比率によって2分割し、所属学科によって指定された曜日時限での履修を強く推奨した。その上で、各曜日時限の履修学生を3分割し、その内2つのグループは対面での実技、残りの1グルー

プは遠隔授業（OpenLMSを使用したオンデマンド）とした。また、例年は1年次での本科目の履修を推奨しているが、今学期は、緊急事態宣言が発令されるとオンデマンドに切り替える事、社会情勢や家庭などを含む個々人の事情を踏まえる事などを1回目の授業（ガイダンス）で伝え、次年度の履修も可能である事伝えた。

生スポの対面実技は、比較的履修者同士の接触が少ない下記の5種目とし、（卓球、バドミントン、ゴルフ、テニス、ボッチャ）その中から担当教員が担当種目を選択し行った。遠隔授業（課題提出型）は以下の4つを課題とした、1) スポーツと生涯スポーツ、2) スポーツの楽しみ方（する・見る）、3) スポーツの楽しみ方（支える・知る）、4) スポーツの実践。レポート作成は、教科書や参考図書・WEB等、そして個々の経験を含めた800字以上とした。なお、遠隔授業課題の提出締切日は、1)と、2)を10月末、そして、3)と、4)を11月末と全履修生を同日の締切日に設定した（Fig.1 参照）。また、学期間の課題として「私と生涯スポーツ」のを提示し、過去・現在・未来と各々の生涯スポーツについて考えられる機会を持った。

Table 2 Courses to be Offered and Course offered in the Fall Semester

秋学期開講予定科目		秋学期開講科目
区分 II		
・健康・フィット (5)	⇒	1 コマ開講*2
・生スポ (5)	⇒	8 コマ開講
区分 V		
・講義科目 (8)	⇒	6 コマ開講
・実技科目 (12)	⇒	21 コマ開講*3

*2 再履修用のみオンデマンドにて開講

*3 開講したコマ数（諸事情により閉講したコマも含む）

授業スケジュール													
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
対面	グループ別												対面
ガイダンス	Aグループアリーナ				Bグループアリーナ				Cグループアリーナ				まとめ
	Bグループフィットネス				Cグループフィットネス				Aグループフィットネス				
	遠隔授業 1、2回課題締切 ⇨ 10月31日 遠隔授業 3、4回課題締切 ⇨ 11月30日 課題締切 ⇨ 12月31日												
新型コロナウイルスの感染者状況によっては遠隔授業になる場合がある													

Fig.1 Example of The Class Schedule of Theory and Practice of Lifelong Sports

3. アンケート調査とその結果

2020年度秋学期生涯スポーツ理論実習アンケート（Google Formを使用）は、本科目の14回目（まとめ）の授業ファイル末尾に掲載し、任意で実施した。対象者である全8コマの生スポ履修登録学生は、0C生229名、9B生3名、8B生7名、7B生2名、そして6B生1名の合計242名である。なお、本アンケー

トの提出者は135名であり、回収率は55.78%である（Fig.2 参照）。

本アンケートは、下記の質問らで構成した。履修曜日・時限（3.2参照）、対面実技AとBの感想（3.3参照）、遠隔授業の感想（3.4参照）、課題について（3.5参照）、科目における自己評価（3.6参照）、「withコロナ」を踏まえた区分IIの授業形態について（3.7参照）、区分V（実習科目）について（3.8参照）、そして最後に、区分V（講義科目）について（3.9参照）である。

なお、アンケートの冒頭に下記の文章を掲載し、感染対策に努めてくれた学生に感謝すると共に、本アンケートの目的を記載した。

社会が根底から揺らいだ今年一年、一般体育科目の履修をありがとうございました。

春学期の全遠隔授業（健康・フィットネス理論実習）から秋学期は対面授業（生涯スポーツ理論実習）を取り入れる事ができました。大きなトラブルもなく、感染者を出すこともなく進める事ができたのは、感染対策を実施してくれた履修者皆さんのおかげです。心より感謝申し上げます。授業前に検温、マスクを着けて、そして、友達と距離を置いて運動するなど、私たちにとても初めての体験でした。ついにワクチン接種が始まりましたが、しばらくはこの「新しい生活様式」に自分たちの生活を併せる必要がありそうですね。

さて、本アンケートは秋学期の授業の振り返り及び次年度以降の学生希望調査を含めたアンケートです。皆さんの成績評価とは全く関係ありません、また、アンケート結果より個人を特定する事ありません。本科目を履修した学生として、率直な意見をお願いします。

3.1 アンケートの使用に関して

最初の問いとして、個人を特定しない形式でのアンケート使用・結果の発表に関して了承を得た。アンケート回答者135名中3名からの回答の使用許可が了承を得られなかったため、3名の回答は統計処理から除くこととした（アンケート回答者の履修曜日・時限には含める）。

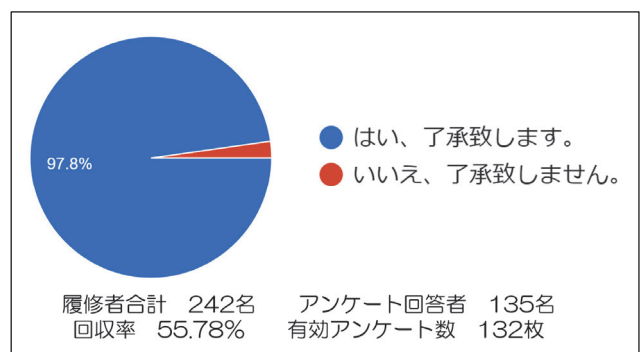


Fig.2 Survey Participants

3.2 アンケート回答者の履修曜日・時限

全8コマの曜日・時限を記した選択肢より自分が履修した曜日・時限を1つ選択する形式にした。な

お、履修者数及びアンケート回収数の詳細については、table 3を参照してもらいたい。

Table 3 Detail of the Theory and Practice of Lifelong Sports in the Fall Semester

開講曜日・時限 (対象学科)	履修 学生数	アンケート回収数 (回収率)
月曜 1 限 (JK)	41	21 (51.2%)
月曜 2 限 (JM)	28	19 (67.9%)
月曜 3 限 (JI)	17	12 (70.6%)
月曜 4 限 (JT)	19	8 (42.1%)
水曜 1 限 (JI)	32	22 (68.8%)
水曜 2 限 (JT)	33	17 (51.5%)
木曜 1 限 (JK)	37	14 (37.8%)
木曜 3 限 (JM)	35	22 (62.9%)

*再履修の学生は対象学科とは関係ない
*JK ⇒ 組み込みソフトウェア工学科
JM ⇒ 経営システム工学科
JI ⇒ 情報メディア学科
JT ⇒ 通信ネットワーク工学科

3.3 対面実技 A・B の感想

対面実技 A・B を受講しての感想を記述式で収集した。Fig. 1 で示した通り、対面実技は 5 つの種目より 2 種目を教員が選択し実施した。従って、受講した種目は同一では無い事が多い。また、担当教員によっては、アリーナで可能な 2 種目（バドミントンと卓球）を実施したケースもある。

記述アンケートからは全体的に肯定的な感想が多く見受けられた（クラスメートと始めて会えて楽しかった、みんなと一緒に楽しくできた、友達ができた、週に 1 回でも体を動かして良かったなど）。また、否定的な意見も見受けられた（マスクを着用しながらの運動は息が苦しい、緊急事態宣言が出てしまい最後の実技が受けられなかった）。種目に関する感想では、特にゴルフとボッチャで両極端である肯定的と否定的な意見が見られた（Table 4 参照）。

Table 4 Negative and Positive Feedback of Golf and Boccia

否定的感想（抜粋）	肯定的感想（抜粋）
● ゴルフ ・打っただけつまらない ・個人競技で会話ができなかったのが残念	● ゴルフ ・打ち方を覚える事ができた ・なかなか自らで経験できない競技を経験できた
● ボッチャ ・もう少し動きたかった	● ボッチャ ・単純なルールの中に考える事が多く楽しいと感じた ・つまらなそうと感じたが、意外と面白かった

3.4 遠隔授業の感想

遠隔授業の感想を記述式で収集した。スポーツを学ぶ機会が持てて良かった、レポートが書きやすい内容だった、スポーツに関する知識を学べたなどの肯定意見の他、課題の字数が多い、対面実技の時間

が減った、遠隔だとやる気が起きない、春学期の健康・フィットと変わらない、対面実技と遠隔授業の点数が同じは割に合わない、対面実技と並行して遠隔授業を行うグループは大変だった、文字数の指定が無意味、スポーツに関する知識を知識で身に付ける事は机上の空論、大学施設を使えない事に憤りを感じたなどの否定的意見も多数あった。

3.5 課題（私と生涯スポーツ）の感想

1 学期間を通じて設定した課題についての感想を記述式で収集した（未提出の場合は未提出と記載を指示）。本課題の評価基準に、「文章だけでなくワードの技術を駆使し、図・写真貼付などクリエイティブなレポートを作成する事」とし、学生自身が過去の写真や賞状などの媒体を探し、スポーツ履歴を振り返る事で改めてスポーツとの関係について考えられるよう試みた。なお、課題の目的は下記の「課題（私と生涯スポーツ）目的」を参照してもらいたい。

感想の多くは、自分とスポーツの関わりを確認する事ができた、何をきっかけにスポーツを始めたのか振り返る機会になった、自分が行ってきたスポーツを客観的に確認できた、with コロナを意識したスポーツへの考え方が模索できた等、課題の目的に合致していた。また、課題そのものを否定する感想も見られた（この課題を行う意味が分からなかったが、必修科目であり渋々取り組んだ）。なお、152 名（有効アンケート数）中 19 名（12.5%）は未提出との記載であった。

課題（私と生涯スポーツ）目的：

- ・今まで経験してきたスポーツとの付き合いを振り返る。
- ・これからのスポーツとの付き合いについて予想する。
- ・生涯スポーツの定義を振り返り、「自分にとってのスポーツとは」を改めて考える機会とする。

3.6 本科目の自己評価

本科目における自己評価を S～E 評価での 5 段階で行った（出席・課題提出などを自分自身で客観的に評価）。S 評価が 49 名（37.1%）と一番多く、それに続いて A 評価（48 名、36.3%）、B 評価（28 名、21.2%）、C 評価（6 名、4.6%）、E 評価（1 名、0.8%）とであった（Fig. 3 参照）。

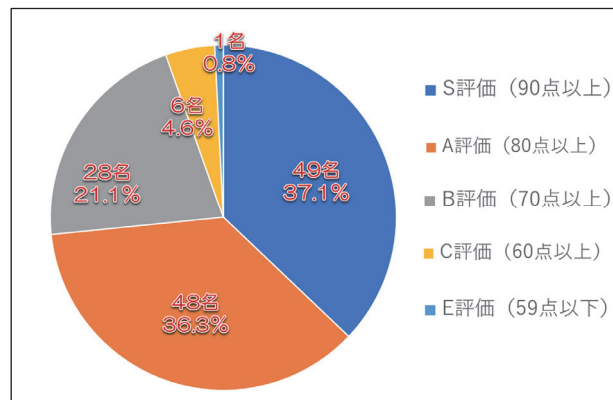


Fig.3 Self Evaluation of the Theory and Practice of Lifelong Sports Class in Fall 2020

3.7 区分 II の授業形態について

2020年度の区分II（健康・フィットと生スポ）の授業形態を文章で振り返り（下記参照）、「with コロナ」を踏まえた次年度以降の授業形態について、遠隔授業、そして対面と遠隔授業の経験者である学生に質問を投げかけた。

今年度は、感染症対策として下記の授業形態で実施しました。春学期【健康・フィットネス理論実習】⇒14回の遠隔授業。秋学期【生涯スポーツ理論実習】⇒9回を対面（ガイダンス、対面実技A、対面実技B）、5回を遠隔（遠隔授業、まとめ）。皆さんは、今後考えらえる「with コロナ」を踏まえると、どのような授業形態が良いと思いますか？

区分IIの科目それぞれに対して5つの授業形態より（全遠隔授業、遠隔授業多めで対面授業少な目、遠隔授業と対面授業を半分ずつ、遠隔授業少な目で対面授業多め、全対面授業）1つを選択させた。

健康・フィットは全遠隔授業が39名（29.5%）と一番多く、真逆の全対面授業は15名（11.3%）であった。遠隔と対面半分ずつ（30名、24.2%）を除くと、「遠隔授業多め」が（55名、41.6%）で「対面授業多め」（47名、35.5%）より多い結果であった。

反対に生スポの全遠隔授業は8名（6%）と一番少なく、遠隔授業少な目で対面授業多めが47名（35.6%）であった。また、遠隔授業と対面授業を半分ずつが39名（29.5%）、全対面授業が24名（18.1%）と全体的には対面実技を希望している傾向（71名、53.7%）が見られた（Fig.4参照）。

概論E⇒健康・スポーツ概論E（レジャー・レクリエーション論）
概論F⇒健康・スポーツ概論F（身体トレーニング論）

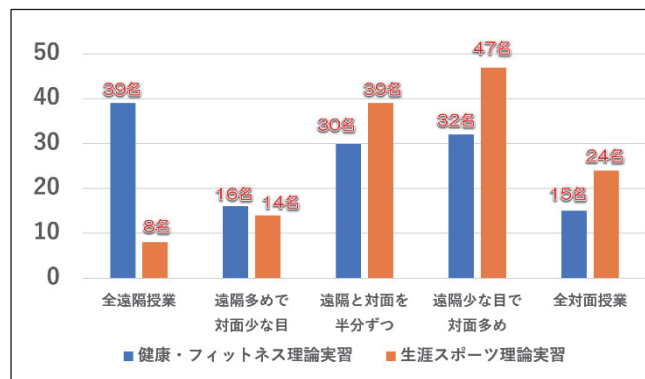


Fig.4 Class Format of Theory and Practice of Health Sports and Theory and Practice of Lifelong Sports

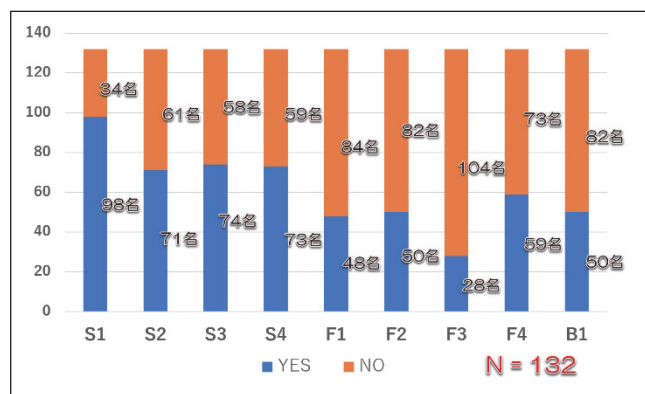


Fig.5 Requests to Take Exercise Classes

3.8 区分V（実習）の履修希望について

次年度以降、スポーツ1~4、フィットネス1~4、武道1+を履修するならば、どの科目を希望するかについてYES/Noによる選択質問をした。なお、複数選択も可とした。

一番履修希望が多数であったのが、スポーツ1、続いてスポーツ3、スポーツ4、スポーツ2であった。総じてスポーツ科目全てでアンケート回答者の半数以上が希望をしていた。また、フィットネスや武道と比較しても履修希望者が全体的に多い事がわかった。反対にフィットネス科目と武道科目は希望者がアンケート回答者の半数にも満たない事が浮き彫りとなった（Fig.5参照）。なお、希望者が一番少なかったフィットネス3であるが、高輪校舎では開講していない。

3.9 区分V（講義）の履修希望及びその授業形態

次年度以降、健康・スポーツ概論A~F⁺を履修するならば、どの科目をどのような授業形態で希望するかについて質問した。なお、選択肢は以下の3つである（対面での授業を希望する、遠隔での授業を希望する、受講は考えていない）

ほぼ全ての科目でアンケート回答者の約半分が受講は考えておらず、受講する場合も対面授業より遠隔授業を希望している事が明確になった（Fig.6参

+1 スポーツ・フィットネス・武道科目一覧

S1⇒スポーツ1（バドミントン）
S2⇒スポーツ2（サッカー、テニス）
S3⇒スポーツ3（卓球、ゴルフ、バスケットボール）
S4⇒スポーツ4（バレーボール、バスケットボール）
F1⇒フィットネス1（ストレッチ&リラクゼーション）
F2⇒フィットネス2（ニュースポーツ）
F3⇒フィットネス3（エアロエクササイズ）
F4⇒フィットネス4（トレーニング）
B1⇒武道1（護身術）

+2 健康・スポーツ概論A~F一覧

概論A⇒健康・スポーツ概論A（スポーツ科学論）
概論B⇒健康・スポーツ概論B（スポーツ観戦論）
概論C⇒健康・スポーツ概論C（スポーツ文化論）
概論D⇒健康・スポーツ概論D（健康科学論）

照)。なお、2020年度春学期は概論A, C, Dをオンデマンドにて開講、秋学期は概論A, C, D, そしてFをオンデマンドにて開講している。

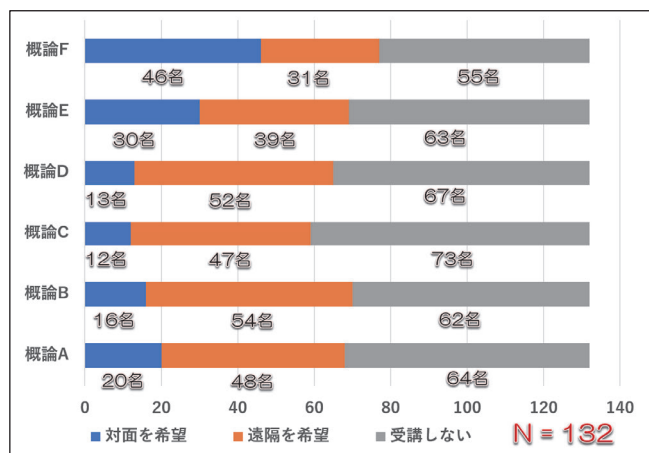


Fig.6 Requests to Take Lecture Classes and Class Format

4. 考察

「する（身体活動）」に代表される体育科目であるが、「する」と併せて、昨今では「見る」「知る」「支える」も重要視されるようになった。しかし、友人と一緒に身体を動かしながら「学べる」のが体育科目の最大の特徴でもある。高輪一般体育科研究室では、現代教養としての健康・スポーツ科目だけでなく、区分Vの自己学習科目（選択）も併せて幅広く履修し、身体を動かす事と共に「見る・知る・支える」など、「する」とは異なった側面についても学べるよう科目を開講している。

2020年度春学期の健康・フィットの履修者は、合計334名（0C生317名、9B生5名、8B生9名、7B生3名）であり、単位習得率は89%であった。その内、69%はS・A評価であり、全11回がオンデマンドであったにも関わらず真摯に課題へ取り組んでいた結果が学期末評価として表れたように思われる。入学当初からの遠隔授業、始めて使用する授業支援システム（LMS）、また、システムの利用制限時間が学期途中で変更するなど、決して恵まれた環境とは言えない中、この高い単位習得率は称賛に値すると考える。なお、参考までに2020年度秋学期に全14回をオンデマンドで開講した健康・フィット（再履修）と比較する。秋学期の履修者は34名、単位習得率は59.3%、S・A評価は32.3%である。つまり、オンデマンド授業の場合、課題の提出有無が直接評価に関係してくるため、履修者の個々の取り組みが顕著に学期末評価に表れる。

春学期同様に秋学期開講の生スポにおいても単位習得率は93%と非常に高く、約5分の4に当たる82%がS・A評価であった（【3.6の本科目の自己評価】では、73.4%がS・A評価と過小評価）。また、対面実技を担当した教員からは非常に高い出席率であったとの報告を受けている。

本アンケートの提出者は135名と（回収率55.78%）、任意にも関わらず、半数以上の学生から率直な意見

が収集できた。

対面実技A・Bの感想からは、生スポの講義概要にも記載されている“健康・体力面だけでなく、仲間と共に身体活動を体験することで「友達づくり」や「仲間との信頼関係づくり」をねらいとする”が達成されたと実感できた。特に、入学当初から遠隔授業となり、インターネット上でしか友人と会う事ができなかった新入生に取っては、少数に制限はされていたものの良い機会になったと思われる。種目では、卓球、バドミントン、テニスへの肯定的感想は非常に多かった。また、ゴルフやボッチャの体験を持つ事ができ、幅広く“生涯スポーツ”を具現化する事ができたと考える。

履修学生を分散させて少数で対面実技を実施するために加えた遠隔授業であるが、否定的な意見も多い中（4.5参照）、改めてスポーツを学べた、生涯スポーツの意味を理解できたなどの肯定的意見も多数あった。「スポーツは身体を動かすもの」と考えている学生も多く、今一度スポーツの意味・意義、スポーツの必要性、生涯スポーツ、スポーツの楽しみ方（する・見る・支える・知る）について考える一助になったと期待している。

課題（私と生涯スポーツ）についても遠隔授業同様に、自分自身とスポーツについて振り返り・考える一助が持てたと考えられる。評価基準に「クリエイティブなレポートの作成」を加えていたこともあり、多くの課題提出者は幼少・小中高時代の写真、部活動での写真、有名野球・サッカー選手との写真、メダルや賞状の写真の貼付していた。また、家族でスポーツ観戦（応援）を楽しんでいる話など、多種多様な「私と生涯スポーツ」をレポート上で表現してくれた。

区分IIの授業形態では、1年間を通して遠隔授業と対面授業の両方を経験した学生だからこそその意見であると受け止めている。健康・フィットで大多数なのは全遠隔授業、そして生スポの大多数は遠隔少な目で対面多めである。これは今年度の授業形態であり、全員では無いが今年度の授業形態に納得しているとも考えられる。注目したいのは、授業にて対面を希望している学生の多さである。例年の授業形態であれば全14回の中でガイダンスとまとめを除く授業回は実習である。授業別での大多数は上述した通りであり、遠隔授業を希望している学生は少なくはない。しかし、区分IIとした場合、大多数となるのは遠隔授業少な目で対面授業多め（32名+47名）である。Fig.4においても右寄り（対面多め）である事がわかる。対面授業が多いと言う事は実習を希望している、つまり、授業内での運動を希求しているものと考えられる事ができる。

区分IIの結果からは運動に対しての肯定的な結果をも見る事ができたが、区分V（実習）では、過半数に達したのがスポーツ1~4との結果であった。フィットネスはシラバスにて概要・詳細が記載されているものの、科目名称からイメージする内容が不明瞭であり、履修に繋がらないのではないかと示唆される。例えば、フィットネス2（ニュースポーツ）や

フィットネス 4 (トレーニング) は科目名称からは、実習内容が不明確である。つまり、どの様な種目を実施するのが不明である。また、トレーニングの様にイメージのみが先行すると履修を避ける傾向も示唆される (科目詳細は+1 を参照)。

区分 V (実習) よりも明確な結果が出たのが、区分 V (講義) である。受講しない、遠隔授業、対面授業が希望の順番であり、一般教養としての健康・スポーツ概論は履修希望者が多くない事がわかった (Fig. 6 参照)。アンケート選択肢は講義名のみのものであり、授業概要が不明であったことも示唆される。しかし、遠隔授業が導入された事によって、以前のように空き時間を埋めるために履修していた区分 V から、授業形態 (オンライン・オンデマンド) によって履修を選択する区分 V へと変化したとも考えられる。唯一、概論 F (身体トレーニング論) の対面授業希望者数だけが遠隔授業希望者数を上回る結果であった。概論 F は他 5 つの講義科目よりも授業内容が「トレーニング」と明確であり、対面授業希望者はトレーニングの演習を希望しているとも考えられる (科目詳細は+2 を参照)。

最後に区分 II の健康スポーツ科目履修に対する学生の意識について考察する。2020 年度秋学期の生スポは 229 名の履修があった。1 回目のガイダンスにて、遠隔授業があるから、感染症のリスクが拭えないから、或いは次年度での履修も推奨されたから等諸種の理由で履修を削除した学生も少なくはない。低学年のうちに履修を終えておきたいなどの理由はあるにせよ、多くの学生が「大学に行きたい」と考えている事に驚いた。残念ながら新型コロナウイルス感染者増加により緊急事態宣言が 2021 年 1 月 7 日より首都圏 4 都県に出された。ガイダンス時より緊急事態宣言が発令された際には遠隔授業に切り替える事を連絡していたため、第 13 回目と 14 回目は遠隔授業とし、科目を終える事となった。秋学期当初より、緊急事態宣言発令の際には遠隔授業へ切り替えると公言していたものの、学生にとって週に 1 回でも運動する機会、或いは大学に来る機会を失わせてしまった事は非常に残念で仕方ない。しかし、遠隔授業に切り替える事で、学生の移動を押さえ、新型コロナウイルスへの感染リスクを軽減する事が出来たのであれば本望である。

5. おわりに

本稿では、2020 年度の高輪一般体育開講科目を春学期・秋学期と別々に振り返り、秋学期に収集した生涯スポーツ理論実習のアンケート調査とその結果について述べた。2020 年度は新型コロナウイルスと言った未曾有の感染症の出現により授業形態の大幅変更を余儀なくされ、身体運動を主としていた健康・スポーツ科目においても遠隔授業を導入する結果となった。身体活動を伴う事を必須としていた健康・スポーツ科目であるが、アンケート結果によると、遠隔授業も受け入れられている事が明確になった。また、区分 V の実習では、学生が希望している種目も明らかにする事

ができ、反対に科目名称だけでは履修を希望しない学生が多い事も理解できた。

新型コロナウイルス感染拡大防止により高輪一般体育科目の授業形態を大きく変更しなければならなかった 2020 年度であるが、この大きな変更により、改めて高輪校舎における一般体育科目の開講方法について考えさせられる一助にもなった。本アンケート結果を基に、大学改組改編前最終年度 (2021 年度) の授業開講科目及びその授業形態について考えていきたい。

6. 謝辞

今年度の大幅な科目変更・修正の相談及び対応して頂いた高輪校舎教学課の皆様及び高輪一般体育研究室非常勤教員の皆様に心から感謝申し上げます。また、任意にも関わらず生涯スポーツ理論実習アンケートに協力・提出してくれた履修学生にも感謝申し上げます。

参考文献

- 1) 【新入生、在学生、ご家族の皆様へ】2020 年度春学期の授業について、東海大学 > お知らせ一覧 > 重要なお知らせ
<https://www.u-tokai.ac.jp/news-notice/20243/#:~:text=%E6%97%A5%E6%9C%AC%E5%9B%BD%E5%86%85%E3%81%AB%E3%81%8A%E3%81%91%E3%82%8B%E6%96%B0%E5%9E%8B%E3%82%B3%E3%83%AD%E3%83%8A,%E6%9C%88%EF%BC%89%E3%81%AB%E5%A4%89%E6%9B%B4%E3%81%84%E3%81%9F%E3%81%97%E3%81%BE%E3%81%99%E3%80%82> (最終閲覧日 2021 年 8 月 11 日)
- 2) 健康・フィットネスと生涯スポーツ 三訂版 東海大学一般体育研究室編 大修館書店
- 3) 2020 年度春学期・秋学期 東海大学 (高輪キャンパス) 健康・フィットネス理論実習 シラバス
- 4) 2020 年度春学期・秋学期 東海大学 (高輪キャンパス) 生涯スポーツ理論実習シラバス